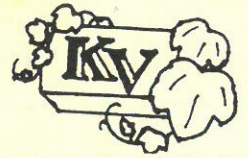


柏ビレジ自治会



10周年記念事業
実行委員会

柏ビレジ10年の歩み

平成4年11月15日

柏ビレジには街並みと景観維持のための建築協定を軸に、緑化、下水処理、共同アンテナ受信などの協定があり、それらを有効適切

に運用するには、ベースとしての自治会が不可欠、というわけなのです。「生涯に一度ぐらい、地域社会への税金」も納めなければ、エンマさまに叱られるだろうな……」——そんな思いも浮んだりして、止むなく引き受けたのが、発起人をつくるための世話人会だったのです。十数人の委員の方々も、それぞれ事情を抱えながらも、ひと役買ってくださったわけですね。

いま、私たちの日々の生活を包み、支えるコミュニティの大切さが、改めて大きくクローズアップされてきました。健全なコミュニティが育つかどうかは、福祉や教育、そして生きがいなど、人口の高齢化が進む今日の社会のさまざまな問題を考えるうえで大きなポイントです。国や自治体、そして崩壊の危機が言われ

る家庭を補って、コミュニティこそ、二十一世紀の社会を支える大いなる「資産」と言えましょう。自治会創立十周年をバネに、柏ビレジを、心豊かで安らぎのある、次代をになうにふさわしいコミュニティに育てていく——それは住民のみならず全員の利益であり、幸せの保障でもある、と私は考えます。(89〜7)

また、当社で初の緑化協定を導入し、五十七年には(財)都市緑化基金の「第一回緑の都市賞」に入選いたしました。昭和五十五年、レーガン大統領当選の年に販売を開始して以来十二年の歳月がすぎましたが、現在では一四五〇世帯の方々が暮らしています。近隣公園での夏祭り、テニスコートでの楽しい人々の会話、そして水辺の公園に飛来する渡り鳥、街の中で四季折々の景色を

私たちが柏ビレジに入居したのは昭和56年の春。最初の売り出しの時でしたので、ビレジ第一回生というわけですね。入居後しばらくして東急不動産の幹部の方から自治会をつくって欲しい、と頼まれたのです。自治会づくりの経験など勿論なかったし、午前様帰りの日々で時間もありませんでしたので断ったのですが、「どうしても」と、許してくれませんでした。

あれから十年。空き地にポツンと建つ近隣センターの一室で、会社から飛んで帰り、集まってくれた委員諸氏と、深夜まで議論を交わした世話人会の様子が、昨日のこのように脳裏によみがえります。この間、住民はじめ、関係者みなさんのご尽力で自治会も立派に発展、十年の節目を迎え

たことは大変喜ばしいことだと思います。私は、初代の自治会長さんをはじめ、役員の方々に無理を押しして就任をお願いしたことへの、せめてもの罪ほろぼしにと思い、初代の緑化委員長を一期つとめさせて頂きました。どうやら、「言い出しっぺ」としては、これではまだ「罪の償い」も「納税額」も足りないということらしく、十周年記念事業の実行委員長をウーンもスーンもなく引き受けさせられた、という次第です。

柏ビレジの用地取得を開始した昭和47年は田中角栄氏の「日本列島改造論」が刊行された年でした。東京周辺のベッドタウン化が急速に進み、地下鉄千代田線の乗り入れもあり注目されていたのが、ここ柏ビレジのある千葉東葛地区でした。当時は市街化調整区域に指定されていましたが、千葉県が調整区域の開発をストップする以前の46年度中に事前協議を進めていたため、52年に開発許可が取得でき、53年2月より造成

街としての統一感と居住者が求める個性化を共存させる為に「フレミング手法」を導入いたしました。街全体をレンガとアイビーの外構、屋根勾配を均一にし統一感を求めつつ、シンボルツリーや屋根・外壁の色調で個性化を導き出しました。

柏ビレジ自治会が、活動とは無縁だった私が、柏ビレジ自治会とのかかわりを持つに至ったのは、当然のことながら、訳がありました。私が柏ビレジに入居したのは昭和56年の春。最初の売り出しの時でしたので、ビレジ第一回生というわけです。入居後しばらくして東急不動産の幹部の方から自治会をつくって欲しい、と頼まれたのです。自治会づくりの経験など勿論なかったし、午前様帰りの日々で時間もありませんでしたので断ったのですが、「どうしても」と、許してくれませんでした。

柏ビレジには街並みと景観維持のための建築協定を軸に、緑化、下水処理、共同アンテナ受信などの協定があり、それらを有効適切に運用するには、ベースとしての自治会が不可欠、というわけなのです。「生涯に一度ぐらい、地域社会への税金」も納めなければ、エンマさまに叱られるだろうな……」——そんな思いも浮んだりして、止むなく引き受けたのが、発起人をつくるための世話人会だったのです。十数人の委員の方々も、それぞれ事情を抱えながらも、ひと役買ってくださったわけですね。

いま、私たちの日々の生活を包み、支えるコミュニティの大切さが、改めて大きくクローズアップされてきました。健全なコミュニティが育つかどうかは、福祉や教育、そして生きがいなど、人口の高齢化が進む今日の社会のさまざまな問題を考えるうえで大きなポイントです。国や自治体、そして崩壊の危機が言われ

る家庭を補って、コミュニティこそ、二十一世紀の社会を支える大いなる「資産」と言えましょう。自治会創立十周年をバネに、柏ビレジを、心豊かで安らぎのある、次代をになうにふさわしいコミュニティに育てていく——それは住民のみならず全員の利益であり、幸せの保障でもある、と私は考えます。(89〜7)

また、当社で初の緑化協定を導入し、五十七年には(財)都市緑化基金の「第一回緑の都市賞」に入選いたしました。昭和五十五年、レーガン大統領当選の年に販売を開始して以来十二年の歳月がすぎましたが、現在では一四五〇世帯の方々が暮らしています。近隣公園での夏祭り、テニスコートでの楽しい人々の会話、そして水辺の公園に飛来する渡り鳥、街の中で四季折々の景色を

コミュニティは大きな「資産」

山崎 勝彦
(自治会設立世話人会代表)



モニュメント

柏ビレジ自治会十周年によせて

大野 勝
(東急不動産株式会社
開発事業本部・第三事業部長)

(そして光る風)



見聞きする時「環境としての街づくり」の重要性、そしてここまでの良好な環境・コミュニティに育てて下さった皆様への感謝の心で胸が一杯です。これからの皆様のご健勝、そして柏ビレジの街が尚一層気品ある街として成長することを心よりお祈りいたします。



柏ビレジの歩み

5・22	花野井警察官駐在所開設
4・20	第一回管理組合総会(組合長 萩原辰雄氏)
4・15	第二回緑化協定総会(会長 佐藤英明氏)
4・15	第四回自治会総会(会長 近藤英二氏)
10・30	第三回もちつき大会
10・1	ビレジニュース No.8 発行
8・31	第三回夏祭り
7・18	共有施設管理組合発足
6・30	テニスコート自主運営開始
5・30	自治会館オープン
5・30	ビレジニュース No.7 発行
4・21	第一回緑化協定総会(会長 山崎勝彦氏)
4・1	第三回自治会総会(会長 近藤英二氏)
2・6	子ども会発足(会長 柿田雅子氏)
1・15	第二回もちつき大会
9・29	ビレジニュース No.5 発行
8・25	第二回夏祭り
6・9	ビレジニュース No.4 発行
4・22	第二回自治会総会(会長 近藤英二氏)
4・8	緑化協定代表委員会発足
59・1・15	ビレジニュース No.3 発行
10・1	第一回もちつき大会
8・6	街路灯の移管を受ける
7・15	第一回夏祭り
7・15	ビレジニュース No.2 発行
58・1・15	ビレジニュース No.1 発行
4・24	第一回自治会総会(会長 近藤英二氏)
12・12	柏ビレジ自治会設立総会(会長 近藤英二氏)
57・7・24	第一回世話人会(代表 山崎勝彦氏)
9・11	第一回発起人会(代表 近藤英二氏)
55・10	販売開始
55・12	入居開始
47・52	土地買収
47・52	造成開始

自治会が出来るまでの、あれこれ

近藤 英二
(初代自治会長)

私共夫婦が、東京・中野のマンションから移って参りましたのが、一九八一年の六月で、建物はあっても人は住んでないし、其他は区画はあっても空地ばかりだ、今の東急の現地案内所の南側の一角は、いくらかまとまって住んで居られた程度と記憶しています。

私が住んで二ヶ月経った時機に、東急の家内所の豊島さんが精力的に歩かれて、今回の催物の委員長になられた、山崎勝彦氏、今は他へ移られた岡井紀道氏の行届いたスケジュールで、初会合を開いた三ヶ月後には、今の自治会の創立を迎えることが出来ました。又、東急関係に居られたので、表面には出られなかった、83-3の永谷英治氏の広範囲に亘っての各地の自治会の資料を提供されたことは、忘れられません。

当時、一番問題になりましたのが、自治会の区域をどの位にするかで、その結果が現在の支部制の誕生でした。そして、支部長の権限が決められ、支部長会の月例で、共通の問題が討議され、運用される仕組みになっているわけです。

又、この自治会の地域に住んで居られる方は、必ずその住居の家族の方が、最少一回は、自治会等の役員になって頂くことになって



写真は昭和54年頃

初代「緑化委員」の感想

佐藤 英明
(二代緑化協定会長)

最近不勉強で、年に一回の自治会や緑化委員会の総会にも顔を出さず、的はずれのところもあるかと思えますが、当時の事を振り返ってみたいと思います。

義理と人情で自治会の役員から、緑化委員の方へ横すべりした事情で、緑のみの字も判らず、家内に木々の名前、草花の名前、花の咲く時期などを何度も聞くことから始め、入居のときに、盲サインをした協定書の見直し、意味の勉強(この辺は他の委員も同じでした)特に緑化委員会と柏市の分担については判りづらく、住民の皆さんからも、分担に関係なくいろいろな事を持たせられ、委員会も頭をかかえましたが、最後は全てを受け、柏市の分担は自治会の方へ我々から連絡をするという、仕事の流れをつくりました。

基本的には「緑多い柏ビレジの居住環境を、より豊かな緑化対策により個々の住居の資産価値を高める」という意志統一のもとに、住民の皆さんにも協力をお願いいたしました。「自分の土地だから、何を植えようと、どのような手入れをしよと、人様にとにかく言われる筋はない」というトランプもありましたが、概ねうまく行ったと自負しております。



現状でも同じだと思いますが、全体を良くするために若干の「私権の制限」は止むを得ない。緑化に限らない事ですが、問題は双方どの辺で折り合うかという事が難かしい。当時の委員会はそんな行司役で「けんけんがくがく」やったこともありましたが、

地球規模の心配はや、大げさですが、先ずは足元、我が柏ビレジの緑はどうか良質な緑が確保されているか、住民の一人として今迄も、今後も気にかけて行き度いと考えています。
(78-4)

新樹会設立の経緯と歩み

林 はつる
(初代新樹会長)

昭和六十二年四月に遡ります。柏ビレジに住み、五年が過ぎました。スーパーストア、道路ですれ違ふ私と同じ年輩の方々と、何とか親しくなりたいと思いました。そこで、「高齢者の福祉を図る親交の場の老人会を作ろうではありませんか」という趣旨の文章を回して、四十九名の署名を得ました。

次に当時の自治会長戸崎様の御宅へ参り老人会設立の要旨、賛同者の署名書を提出致しまして、御協力をお願い致しました。

六月二十二日、自治会副会長の神田様、厚生部の黒江様の御協力により、自治会館にて顔見知りの方の集會を開くことになりました。初回は連絡網も分らず僅かな人数でしたが、回を重ねる度に熱気がこもって参り、発会式を華々しく玉姫殿で施行するところまでに漕ぎつけました。

九月十四日、発会式。出席者四十二名。初代自治会長の近藤様、当時の戸崎様の御参席を得まして、新樹会と命名されました。新樹会は会員から提出された中から選ばれた名前です。新天地に相応しく成長を願う気魄に富んだ会名だと信じて居ります。

発会後は、早速其の頃新作発表されたばかりの「ビ

レージ音頭」を練習したり俳句、其の他幾つかの同好会が半年足らずの間にできました。

平成元年二月、会員数が百人を越しましたので、自治会の区画支部により二つに分け、
第一支部、第四支部を
第一新樹会
第五支部、第九支部を
第二新樹会
と致しました。以来二つのクラブは、前通り毎月一回の例会はもとより、各同好会(ゲートボールも加わり)も一緒に行動し定着して参りました。そして一人でも多くの方の御参加を待っています。また、この先、会長、役員交替があっても和と平等の精神をもって受け継がれることを願って止みません。

柏ビレジ自治会は創立十周年を迎えられました。私たちが新樹会はその半分の五年が経ちました。当初から自治会には色々とお世話を掛けましたが、今後よろしく御協力くださるようお願いいたします。
(88-6)



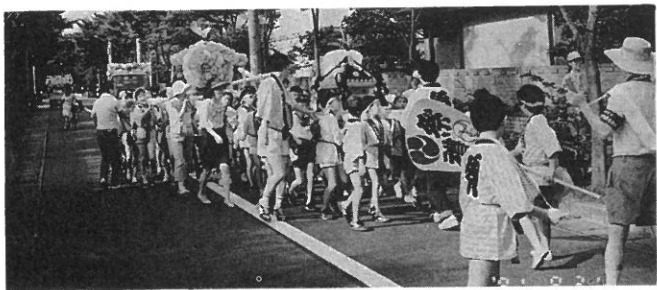
6・15	ビレジニュース No.9 発行	6・15	ビレジニュース No.9 発行
8・30	ビレジニュース No.10 発行	8・28	第六回夏祭り
9・15	第一回文化祭	10・1	花野井地区建築協定運営委員会発足 (委員長 戸崎 巖氏)
11・24	ビレジニュース No.11 発行	10・8	ビレジニュース No.18 発行
12・25	第四回もちつき大会	10・15	物置設置(プレハブ 3間×4間)
1・18	中学校予定地自主管理開始	11・20	第三回文化祭
3・15	ビレジニュース No.12 発行	12・27	ビレジニュース No.19 発行
4・19	第五回自治会総会(会長 戸崎 巖氏)	3・5	第二回ボロ市
	第三回緑化協定総会 (会長 井本末男氏)		
	第二回管理組合総会 (組合長 荒牧幸彦氏)		
5・1	自治会事務局発足		
5・20	ビレジニュース No.13 発行		
8・29	第四回夏祭り		
9・14	新樹会(老人会)発足 (会長 林はつる氏)		
9・24	ビレジニュース No.14 発行		
11・23	第二回文化祭		
12・1	自治会創立五周年記念式典		
12・20	ハンザ・マスト(防災無線塔)開設		
63	ビレジニュース No.15 発行		
2・25	第五回もちつき大会		
3・6	花野井警察官派出所に昇格		
3・31	第一回ボロ市		
4・17	ビレジニュース No.16 発行		
	第六回自治会総会(会長 戸崎 巖氏)		
	第四回緑化協定総会 (会長 相沢忠郎氏)		
	第三回管理組合総会 (組合長 山田隆一氏)		
	ビレジニュース No.17 発行		

手作りの夏祭り

福田 宣彦
(初代体育部長)

この十二月で柏ビレジ自治会が設立されて十周年を迎える。自治会設立前後の様々な事が大変なつかしく思い出されてきます。新しい街柏ビレジに移り住み、多くの方達との出会いがあり、その後二年間体育部として住民相互のコミュニケーションの基礎作りの部分で自から参画すると同時に、同志の積極的な活動によって、スタート直後の自治会活動が支えられていた事を自分の目で見、住民の皆様の心の暖かさを自分の肌で感じる事の出来た喜びは、今でも私の心の中に鮮明に残っております。

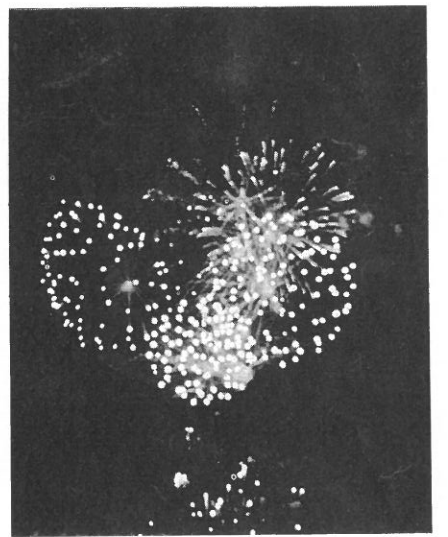
全ての行事が手探りでありましたが、中でも設立間もなく行なわれた第一回夏祭りでは、当時ビレジ内のテニスコートを利用して、た、たさんのテニス仲間の方々に特にお世話になったと記憶しています。昭和58年8月6日に第一回夏祭りが行なわれると決定したものの、財政的にも余裕はなく、夏祭りにつきものの豪華なお神輿を作れる状態ではありませんでした。思案の末、木とダンボール箱を利用し、装飾はちり紙で折った花を使う事にして、早速声をかけあって紙の花を作り始めるところから夏祭りがスタートしたのです。一体、何個の花が皆の手



で作られたのでしょうか。我が家にも夜には色とりどりの紙の花が部屋一杯に広がられていた光景が思い出されます。女性軍と子供達の協力によって作られた花を我々男性軍が慣れない日曜大工で仕上げた神輿に飾りそれは立派な花神輿が(自画自讃?)出来上がったのでした。

何分にも紙で出来ている花神輿の為天気が大変気になりましたが、多くの子供達に担がれ、元気にビレジ内を練り歩く事が出来た神輿を目にした時のあの感動は今でも忘れる事は出来ません。

あれから早十年、立派な神輿、鼓笛パレード、盆踊り、花火大会と回を重ねる度に盛大な夏祭りに発展し



「もちつき事始め」について、メモや記憶を頼りに当時のことを回想しながらふと気がついた。記憶とは絵画的なものであるよりも、むしろ彫刻的なものではなからうかと。同じ事柄が幾度か繰り返されてゆくと、その時折の断片的な心象が時系列の上では相前後しながらも、それぞれが坐り良く重なり合って、全体としてまろやかな立体的なイメージとして、記憶の中に残

「もちつき事始め」

横倉 馨
(元支部長・副会長)

「もちつき事始め」について、メモや記憶を頼りに当時のことを回想しながらふと気がついた。記憶とは絵画的なものであるよりも、むしろ彫刻的なものではなからうかと。同じ事柄が幾度か繰り返されてゆくと、その時折の断片的な心象が時系列の上では相前後しながらも、それぞれが坐り良く重なり合って、全体としてまろやかな立体的なイメージとして、記憶の中に残



た冬の「もちつき大会」について、聊か怪し気な「事始め」の立体像を御伝えしてみたい。

- ・メモ① S58・1・8 自治会創設後、第一回役員会にて年間行事計画を決定。冬のイベントはもちつき・凧揚げに全員即決。
- ・記憶① 言い出しっぺは祭好きの石橋氏。
- ・メモ② S59・1・16 (繰延べ休日の月曜日) 場所は近隣公園、午前10時開始、午後二時終了、参加延べ五〇〇人。
- ・記憶② 快晴なれど風強くプロパン不調。人垣も効なく、急遽厨房用アルミシートを大量調達。最初のつき上がり迄一時間半。
- ・メモ③ リーダー福田、石橋両エースを中心に役員全員とこども会の御母

さん有志を動員。殆ど全員が初体験だった。

- ・記憶③ 延べ白数約30枚。福田、石橋、高見沢、松林、都外川の若手陣健闘。近藤会長、須田、横倉の高齢組はノルマ一枚。返し役に近藤夫人、奥田女史の活躍あり。
- ・メモ④ 総費用、三一〇九八〇円。なお特別収入東急、商店街より二〇〇〇〇円。これなら毎年やれると自信をつけた。
- ・記憶④ 苦心調達の石白三個は、後日の反省会にて激論の末、現場へ常置と決定。公式理由は、恒例行事化の為としたが、実情は、動かせる力持ちが居ない為であった。

そこに白のある限り、このイベントが続くことを念じて止まない。
(57/5)

- 3・20 ビレジニュース No.20 発行
- 4・1 第九支部を新設
- 4・16 第七回自治会総会(会長 戸崎 巖氏)
- 第五回緑化協定総会 (会長 和田 晃氏)
- 第四回管理組合総会 (組合長 矢川一忠氏)
- 第一回花野井地区建築協定総会 (委員長 井本末男氏)
- 第一回柏ビレジ建築協定総会 (委員長 手鹿 啓氏)
- 5・28 緑の日記念植樹
- 6・1 ビレジニュース No.21 発行
- 8・26 第七回夏祭り
- 9・20 ビレジニュース No.22 発行
- 11・19 第四回文化祭
- 12・31 ビレジニュース No.23 発行
- 2・2・14 第七回もちつき大会
- 2・18 第56投票所開設(柏ビレジ近隣センター)
- 3・18 第三回ボロ市
- 3・31 ビレジニュース No.24 発行
- 4・22 第八回自治会総会(会長 戸崎 巖氏)
- 第六回緑化協定総会 (会長 磯田正八氏)
- 第五回管理組合総会 (組合長 荒木史朗氏)
- 第二回花野井地区建築協定総会 (委員長 井本末男氏)
- 第二回柏ビレジ建築協定総会 (委員長 手鹿 啓氏)
- 6・1 ビレジニュース No.25 発行
- 8・1 ビレジニュース No.26 発行
- 8・25 第八回夏祭り
- 9・9 花野井地区建築協定延長認可
- 10・7 「柏ビレジ運動広場」オープン
- 10・15 ビレジニュース No.27 発行
- 11・18 第五回文化祭
- 12・15 ビレジニュース No.28 発行
- 3・1・13 第八回もちつき大会
- 2・15 ビレジニュース No.29 発行
- 3・31 ビレジニュース No.30 発行
- 4・10 柏ビレジ建築協定延長認可
- 4・21 第九回自治会総会(会長 戸崎 巖氏)

子ども会の誕生

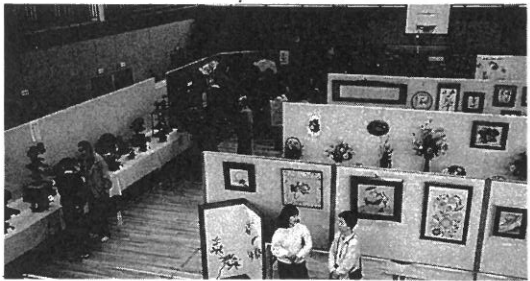
柏ビレジ自治会創立十周年、おめでとうございます。自治会設立直後の昭和五十八年四月に、ここ柏ビレジに引越して参りましたので、我家の柏ビレジでの生活はまさに、自治会の歴史と共に歩んできた訳です。当時の総戸数四百一十一戸中の一戸として、この整然とした美しい街、柏ビレジでの生活が始まりました。

引越しの整理もまだまだというどきどきの中で、花野井小学校の役員として、柏ビレジ地区委員長を引き受けてしまったのが運のつきで、地区委員の性格上、地域の子供会を兼務するということになり、昭和六十年四月一日、柏ビレジ自治会の中に子供会が誕生いたしました。役員経験も何もない私にとっては、とても荷の重い大役でしたが、副会長の神田さんや、他の役員の方々の一方ならぬ御協力が、無事にお役目を全うすることができたのだと思っております。

柿田 雅子 (初代子供会長)

の事のように思い出されます。途中で気分が悪くなってお母さんにお迎えに来てもらった子供、アイスクリームが沢山食べられると大喜びしていた子供、暑さと疲れでげんざりしていた子供、そして最後まで頑張り通した満足感が満面に溢れていた子供、あの時の子供達はもう何歳になったのでしょうか。お祭りに参加した事ももう忘れているかも知れませんが、あれども私は、あちらこちらの地域から集まってきた寄せ集めの柏ビレジの住人が、地域の祭りに参加させて頂いたことは、地域との交流を図る意味からも、とても意義深いことだったと思っております。

今や総戸数約千五百戸と、文化祭がビレジ住人による文化活動の交流の場となればという強い願いが、一方ではやる気となって、手さぐりの中での準備が始まりました。



文化祭ことはじめ

柏ビレジ自治会創立十周年、おめでとうございます。第一回文化祭を開催するに当たっての思い出話をといふことでしたので、記憶を辿ってみました。

昭和六十一年度の役員を訊のわからないまま引き受けて日も浅い頃、第一回柏ビレジ文化祭の実行委員長という大役を任せられました。何も無いところからの出発に大きな不安がありました。常に追い求めて年月を重ねている最中にありましたので、文化祭がビレジ住人による文化活動の交流の場となればという強い願いが、一方ではやる気となって、手さぐりの中での準備が始まりました。

神田 由美子 (元副会長)

でも美しく、住み易く、そして思い出多い街であって、くれるよう祈らずにはいられません。(73/8)

いい経験でした。作品展示用のパネルの準備や配置、演芸の時間配分文化祭の看板から作品用名札に至るまで、考えつく事はすべて役員さん達の惜しみない協力を得て実行に移されました。いよいよ文化祭の前日、外も暗くなった頃、高レベルの作品群が並べられ、その全容が姿を現わしたのを見て誰よりも当



事業部を引き受けて

時の近藤会長が絶讃して下さった事が、一番印象深く思い出されます。行きがかり上第二回目的文化祭まで勤めさせて頂きました。自治会が発足して間もない時期の土台を築く気運に満ちた自治会活動

江戸っ子だつてねえ！ 神田の生れよお！ 火事に祭りに、どこへでも飛んで行ったり、そんな良き時代に神田ですごしました。よく我が家では、親父と町会の人達が会議をしたり、お酒を酌み交わしていたのを覚えております。親父は七〇歳を過ぎた今でも町内会の仕事を手伝って、生き生きとして下町の良さを守っています。そんな家に生れた私が、柏ビレジに転居し二年目に自治会の仕事を手伝ってくれと言われ、この町が将来一五〇〇軒にもなるという事で、少しでもお役に立てればと言う気持ちで事業部を引き受けました。まず考えた事は、お祭りでも餅つき大会でも、一人でも多くの方に参加してもらおうにはどうしたら良いから始まり、たまたま役員さんとして活躍されていた工藤さんのご協力のもと、ロックグループ、万才、歌手の方々に出演依頼が came、年々盛大になってきました。

松本 誠 (元支部長・副会長)

の中で、私のような主婦に第一回をやらせて頂いたことを大変光栄に思います。今後も住民手作りの、価値ある行事が、出会いの場として輪を広げ続けていくことを願っております。(名古屋在住)

最後にこの十年、自治会役員に携わって協力していただいた方々に、深く感謝したいと思います。有難うございました。(106/10)

第七回緑化協定総会

(会長 上林幸雄氏)

第六回管理組合総会

(組合長 工藤克昌氏)

第三回花野井地区建築協定総会

(委員長 境野敏郎氏)

第三回柏ビレジ建築協定総会

(委員長 坪井 啓氏)

6・1 ビレジニュース No.31 発行

6・23 寄贈を受けた半製品の御輿完成

8・1 ビレジニュース No.32 発行

8・31 第九回夏祭り

10・15 ビレジニュース No.33 発行

11・17 第六回文化祭

12・15 ビレジニュース No.34 発行

4・1・19 第九回もちつき大会

3・31 ビレジニュース No.35 発行

4・19 第十回自治会総会

(会長 服部 博氏)

第八回緑化協定総会

(会長 上林幸雄氏)

第七回管理組合総会

(組合長 田中文治氏)

第四回花野井地区建築協定総会

(委員長 境野敏郎氏)

第四回柏ビレジ建築協定総会

(委員長 小倉真宜氏)

6・1 ビレジニュース No.36 発行

6・21 十周年記念事業実行委員会発足

8・1 ビレジニュース No.37 発行

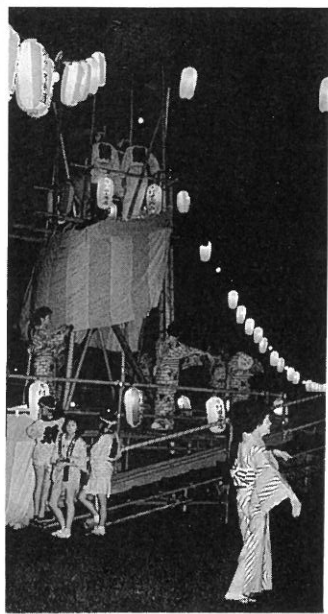
8・29 第十回夏祭り

10・1 十周年記念樹植樹(椎の木)

10・15 ビレジニュース No.38 発行

11・15 第七回文化祭

自治会創立十周年記念式典



「柏ビレジ音頭」の思い出

有 田 礼 子 (作詞者)

自治会創立十周年、おめでとうございます。十年の歳月を経て、自治会活動が益々充実してきたことと存じます。去年の夏一時帰国し、柏ビレジを久しぶりに訪ずれましたが、成長した街路樹が大きな影を落とす、しつとりと落ちていた街並みとなり、なつかしさと安らぎを覚えました。「柏ビレジ音頭」も誕生してから五年がたちました。皆様に歌い継がれているとお聞きし、嬉しく思っております。

「柏ビレジ音頭」も誕生してから五年がたちました。皆様に歌い継がれているとお聞きし、嬉しく思っております。詩歌もたしなまず、歌の作詩経験もなない私が「柏ビレジ音頭」を作詩したのは当時主人が自治会の広報委員を担当していたからでした。自治会創立五周年を記念して「柏ビレジ音頭」を住民の手で作ろうという話が持ち上がり広報誌などで広く詩を募集したので、半年たつても応募がなく、実現への第一歩がなかなか踏み出せず「たたき台」にしてもらえ

ば……」と、柏ビレジの四季を頭に描きながら、七五調で書いてみたのですが、どうみても単なる素人の作詞でした。しばらくして、筒井先生の曲が出来上がったということでお宅へ伺いました。その時の驚きと感動は今でも忘れられません。あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。

柏ビレジ音頭

レジの街並が目には浮かび、私もこの街が好きになりました。」と言われたこと、また友人が「あなたがビレジの街を心から愛しているという思いがよく表われている詩ね。」と言われ、とても嬉しかったことも、昨日のことのように思い出します。

いつか帰国したら、また心ゆくまで「柏ビレジ音頭」を踊りたいと楽しみにしています。会員皆様の協力のもと、自治会活動が今後益々発展されることを祈っております。(ヒューストン在住)

筒 井 広 志 (作曲者)

共有施設管理組合の設立

長い外国生活から帰国して、街のたたずまいと、間どりと相應の予算で気に入った柏ビレジに落ち着いて間もなく、自治会役員に選ばれた。施設部長という職責となつたが、一年目は街路灯の管理などが主で、ビレジ祭りや、もちつき大会の手伝いなど、楽しくやらせてもらっていたと思いきや……二年目に突然、管理組合設立の年となり、共有施設の管理だからということ、施設部長がそのまま初代組合長という重責を担うことになってしまった。

そしてできればお祭りのときだけではなく、いつでも気軽にギターなど奏でながら、自分たちの街のフォークソングとして親しんで戴きましたら、作曲者としてこれ以上の喜びはないと思えます。(50頁4)

萩 原 辰 雄 (初代組合長)

柏ビレジ音頭

作詞 有田礼子
作曲 筒井広志

でも忘れられませんが、あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。「柏ビレジ音頭」発表の日(自治会創立五周年記念式典の日)歌手の方から「この歌を渡され詩を読んだ時まだ行ったことのない柏ビ

でも忘れられませんが、あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。「柏ビレジ音頭」発表の日(自治会創立五周年記念式典の日)歌手の方から「この歌を渡され詩を読んだ時まだ行ったことのない柏ビ

でも忘れられませんが、あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。「柏ビレジ音頭」発表の日(自治会創立五周年記念式典の日)歌手の方から「この歌を渡され詩を読んだ時まだ行ったことのない柏ビ

でも忘れられませんが、あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。「柏ビレジ音頭」発表の日(自治会創立五周年記念式典の日)歌手の方から「この歌を渡され詩を読んだ時まだ行ったことのない柏ビ

でも忘れられませんが、あの詩が曲を得たとたん、言葉のひとつひとつが命を与えられたように生き生きと躍動を始め、心に入り込んできたのでした。「柏ビレジ音頭」発表の日(自治会創立五周年記念式典の日)歌手の方から「この歌を渡され詩を読んだ時まだ行ったことのない柏ビ



柏ビレジ建築協定の期間更新

手 鹿 啓
(初代運営委員長)

昭和六十三年の三月頃であつたと思う。自治会役員をしていただき会長の戸崎さん、花野井の井本さんと共に、東急不動産の方へ会つた。

* 現建築協定は二、三年後に期限が切れる。

* 現在の住宅地としての高度な環境を維持するためには、期間の更新が必要である。

* そのためには建築協定運営委員会を設立せねばならない。

と勧められたのが、建築協定との初めての出会いであつた。

自治会を初めとする諸団体は柏ビレジの入居開始後から逐次設立されたが、建築協定運営委員会は未だ十

年先のことだとして、見送られていたと思う。そして期間更新の必要が間近に迫つた昭和六十三年に急遽設立されたのである。

平成元年四月から二年間一、二九二区画を対象とする申請書作成のため委員全員がこれに集中没頭したのである。

とにかく、全員から同意書、印鑑証明(海外は領事証明)土地家屋の登記簿謄本を収集せねばならなかつた。しかもそのうち約一五%

の方が、海外とか他府県に居住しておられ、その方々と連絡を取るためには、先ず現住所調査から開始せねばならなかつた。

限られた紙面でその全てを語ることは出来ない。提



(造成直後の水辺の公園)



(人と鳥と魚の憩いの場)

出の遅れている方への督促不同意の方との折衝、その周辺の方への配慮、謄本取得の代行、膨大な量の書類の作成と、夏の暑い日盛り

に夜打ち朝駆けで悪戦苦闘したものである。

このような状態であつたから、申請書提出の間際までハラハラのしどろしどろであつた。

公聴会ではこの協定の更新申請に対し、市の都市計画委員から感謝の意を表されたぐらいであつた。また柏ビレジ在住の未知のO氏

が出席されており、「協定に賛成である。協定により少々拘束されるが、自らが環境を維持するために止むを得ないことである」と発言されたが、この発言は当事者として非常に嬉しかつた。

後日、東急不動産へ認可となつた旨を知らせたのであるが、その折、他所では期間更新がうまく行かなかつたケースが多いと聞き

苦勞の仕甲斐があつたと思つた。

次の更新まであと九年未満、未だ年月があると思つたら遅いのである。社会環境の変化に伴い、協定の見直しも必要かも知れない。

また花野井地区との統合も考える余地がある。

最後にご協力いただいた土地所有者等の方々、並びに頑張っていたいただいた委員の各位に厚く御礼を申し上げます。

(35頁14)

自治会創立十周年を迎えて

服 部 博
(自治会長)

昭和五十七年暮、戸数三五一戸で発足した柏ビレジ自治会は今年で十周年を迎え、今や一四四〇戸を数えるに至りました。来年には

一五〇〇戸になる予定です。自治会創立に参加し苦心された役員の方々、その後の自治会の運営に尽力された役員の方々の御努力により

又柏ビレジに住居を移された住民の方々の力強いバックアップに励まされて、当自治会は益々充実し発展して今日を迎えましたことは御同慶の至りと存じます。

御存知とは思いますが、当自治会は柏市田中地区十九町会の一つであり、戸数に於いては突出していません。田中地区は昔は田中村であり、徳川の直轄地として農地と馬の牧場が大部分であつたと聞いています

が、昔の面影や伝統の行事も残っています。そういう地域へ、大都会からの転居者が主体となつた柏ビレジが出来たのですから、最初の住民の方々の御不便や御苦勞は想像以上であると思われまふ。然し乍ら十年経つてみれば、柏ビレジで呱呱の声をあげた幼児も十才となり、小学校は二校となり、子供達にとっては勿論大人にとつても柏ビレジは住みなれたなつかしい故郷となつています。

確かに柏ビレジは大都会のベッドタウンに違いありませんが、十周年を迎えた今になってみれば、独自の文化とは言わない迄も、何か特色のある美しい街にしたいと思ふのは自然の感情だと思ひます。幸い当地区にはすばらしい方々が大勢居住されています。只惜しむらくは、皆様方が夫々の企業や組織で重要な地位を占められ、社業に多忙のあまり仲々地域の活動に御参加して頂く時間のないこと



(私達もビレジの住人?)

だと思ひます。

社会通念としての老齢化問題も、柏ビレジにも関連して参ります。例えば児童数は昨年に比し九十名も減少しています。今後の十年を考へ、自治会の活動に皆様の御多忙の時間をほんの少しおわけて頂くことをお願いしたいと思います。

一五〇〇戸のパワーを誇示するわけではありませんが、大いなるパワーであることは疑いありません。この力を、田中地区のふるさと作り、に大いに協力し、力強くしかも美しい街柏ビレジを望んでゆきたいと思ひます。

(131頁1)

編集を終えて

戸 崎 巖
(二代自治会長)

皆様からお寄せいただいたアンケートにもとづいて、十周年の記念事業のひとつとして取り上げたパンフレットがようやく出来上りました。

実行委員会でも何回か討議を重ね、年表を軸とし、今日のビレジを築き上げた方々の苦心談や思い出話を中心に編集しました。原稿をお寄せいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

一般会員の方々のご投稿も呼びかけたのですが、こちらは残念ながらご応募はありませんでした。PR不足を反省しております。

内容、体裁とも色々意に満たないことばかりですが式典までに間にあわせようと時間の余裕がなかつたため、このようなものになつてしまいました。

私事に亘りまことに恐縮

ですが、私の次孫は、昭和五十七年十二月十一日、つまり自治会設立総会の前日生まれました。まさに自治会の歴史と共に育つたわけです。記念パンフレットの編集を仰せつかったのも何かの因縁かと思うのです。

一読して捨ててしまうことなく、二十周年、三十周年を迎える日まで、大切に保存していただければ幸甚に存じます。

(82頁4)

記念樹「椎の木」

移植のため今は枝を落としています。やがて枝を広げ葉を繁らせてくれることでしょう。そして柏ビレジも、益々豊かな明るい街として発展して行くことを心から祈ります。

